

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第1面）

産業廃棄物処理計画書	
2024年6月27日	
大阪市長 殿	
提出者	
住所 東京都港区港南二丁目16番6号	
氏名 キヤノンマーケティングジャパン株式会社	
代表取締役社長 足立 正親	
電話番号 03-6719-9111	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	キヤノンマーケティングジャパン(株) 大阪回収センター / 大阪物流センター
事業場の所在地	大阪府大阪市住之江区南港北 2-3-28 住友倉庫内
計画期間	令和6年4月1日 ～ 令和7年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	I54 機械器具卸売業
②事業の規模	会社売上高単独：428,556百万円（2023年12月期）
③従業員数	13名（当該事業所）
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2のとおり

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	排 出 量	3.59 t	0.003 t
	（これまでに実施した取組） 種類別に分別を徹底することで、グループ内および協力会社での再資源化を推進し、埋立ゼロを推進する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	排 出 量	3.5182 t	0.00294 t
	（今後実施する予定の取組） 上記の徹底に加え、更に有価性のある物を売却する事で廃棄物抑制を図る。		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 廃電気機械器具、廃プラスチック類、木くずそれぞれに分別して保管を行っている。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 現状の取り組みを継続していく。

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
20.77 t	7.63 t	417.02 t	1568.63 t

②計画

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
20.3546 t	7.4774 t	408.6796 t	1537.2574 t

(第3面－1)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	自ら再生利用を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	自ら再生利用を行う 産 業 廃 棄 物 の 量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組）		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	自ら熱回収を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	0 t	0 t
	自ら中間処理により 減量した産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	自ら熱回収を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	0 t	0 t
	自ら中間処理により 減量する産業廃棄物の量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組）		

(第3面－2)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
0 t	0 t	0 t	0 t

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
0 t	0 t	0 t	0 t
0 t	0 t	0 t	0 t

(第4面－1)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（ 5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産 業 廃 棄 物 の 量	0 t	0 t
	（これまでに実施した取組）		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産 業 廃 棄 物 の 量	0 t	0 t
	（今後実施する予定の取組）		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（5年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	全 処 理 委 託 量	3.59 t	0.003 t
	優良認定処理業者への処理委託量	0 t	0.003 t
	再生利用業者への処 理 委 託 量	3.59 t	0.003 t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	（これまでに実施した取組）		
	種類毎に分別を徹底する事で、グループ内および協力会社での再資源化を促進し、埋立ゼロを推進する。		

(第4面－2)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
0 t	0 t	0 t	0 t

②計画

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
0 t	0 t	0 t	0 t

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
20.77 t	7.63 t	417.02 t	1568.63 t
20.77 t	7.63 t	417.02 t	0.04 t
20.77 t	7.63 t	417.02 t	1568.63 t
t	t	t	t
t	t	t	t

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥（泥状のもの）	廃油
	全 処 理 委 託 量	3. 5182 t	0. 00294 t
	優良認定処理業者 への処理委託量	0 t	0. 00294 t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	3. 5182 t	0. 00294 t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
	（今後実施する予定の取組） 分別の徹底に加え、更に有価性のある物を売却する事で廃棄物抑制を図る。		
※事務処理欄			

②計画

廃プラスチック類	発泡スチロール	木くず	廃電気機械器具
20.3546 t	7.4774 t	408.6796 t	1537.2574 t
20.3546 t	7.4774 t	408.6796 t	0.0392 t
20.3546 t	7.4774 t	408.6796 t	1537.2574 t
t	t	t	t
t	t	t	t

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額(前年度実績)、建設業の場合における元請完成工事高(前年度実績)、医療機関の場合における病床数(前年度末時点)等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程(当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。)を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者)への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者(廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者)である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

別紙1 処理の行程



